

Title	慶應義塾大学塾生の運動実施に関する実態調査：体育実技非履修者を含む全学年の調査から
Sub Title	Forschung zur sportlichen Betätigung der Studenten der Keio-Universität : Unter Verwendung der Befragung der Studenten aller 4 Studienjahre , einschliesslich der Studenten, die Sport nicht als Fach belegen
Author	植田, 史生(Ueda, Fumio) 佐々木, 玲子(Sasaki, Reiko) 村山, 光義(Murayama, Mitsuyoshi) 田中, 伸明(Tanaka, Nobuaki) 上向, 貫志(Uemukai, Kanshi)
Publisher	慶應義塾大学体育研究所
Publication year	1998
Jtitle	体育研究所紀要 (Bulletin of the institute of physical education, Keio university). Vol.37, No.1 (1998. 1) ,p.55- 69
JaLC DOI	
Abstract	Im Zusammenhang mit der Möglichkeit zur freien Wahl der Gesunderziehung wurde diese grundlegende Forschung zur Verbesserung des Sportunterrichts durchgeführt. Darin wurde eine Befragung der Studenten der Keio-Uni aller 4 Studienjahre, in Bezug zur allgemeinen sportlichen Betätigung zu Grunde gelegt. Von den freiwillig abgegebenen 3500 Fragebögen waren 1043 von Studenten, die Sportunterricht belegen. Das entspricht 30% der eingesammelten Fragebögen. Von den Fragen bezüglich der sportlichen Betätigung und des Lebensstils der Studenten der Keio-Uni lässt sich folgendes Ergebnis ableiten. 1. Die allgemeine sportliche Betätigung ist im ersten Studienjahr am Höchsten (Männer: 65.0% ; Frauen: 49.3%) und nimmt bis zum 4. Jahr, besonders bei den Frauen stetig ab (Männer :50.7% ;Frauen :25.4%) 2. Wenn man die individuelle sportliche Betätigung nach Studienjahr betrachtet, so kann man sehen dass Studenten, die im ersten Studienjahr keinen Sport betreiben bis zum 4. Studienjahr Keinen Sport betreiben. Ausserdem ist die Wiederaufnahme der sportlichen Betätigung nach Unterbrechung gering. Man kann sagen, dass zur Weiterführung der sportlichen Betätigung das Betreiben von Sport im 1. Studienjahr wichtig ist. 3. In der gesonderten Befragung der Studenten, die Sport an der Uni weitermachten, die sportliche Betätigung abbrachen und derjenigen, die keinen Sport machten, konnte man sehen dass andere Faktoren des alltäglichen Lebens, wie Stundenplan, Jobben etc. die sportliche Betätigung nicht sehr beeinflussen. Allerdings konnte man feststellen, dass Studenten, die vor Universitätseintritt Sport betrieben, weiterhin Sport betreiben und ein entsprechendes Bewusstsein gegenüber Sport besitzen.
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00135710-00370001-0055

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学塾生の運動実施に関する実態調査
——体育実技非履修者を含む全学年の調査から——

植田 史生* 佐々木 玲子* 村山 光義**
田中 伸明** 上向 貫志**

Forschung zur sportlichen Betätigung der Studenten der Keio-Universität
——Unter Verwendung der Befragung der Studenten aller 4 Studienjahre,
einschliesslich der Studenten, die Sport nicht als Fach belegen——

Fumio Ueda¹, Reiko Sasaki¹, Mitsuyoshi Murayama²
Nobuaki Tanaka², Kanshi Uemukai²

Abstrakt

Im Zusammenhang mit der Möglichkeit zur freien Wahl der Gesunderziehung wurde diese grundlegende Forschung zur Verbesserung des Sportunterrichts durchgeführt.

Darin wurde eine Befragung der Studenten der Keio-Uni aller 4 Studienjahre, in Bezug zur allgemeinen sportlichen Betätigung zu Grunde gelegt. Von den freiwillig abgegebenen 3500 Fragebögen waren 1043 von Studenten, die Sportunterricht belegen. Das entspricht 30% der eingesammelten Fragebögen. Von den Fragen bezüglich der sportlichen Betätigung und des Lebensstils der Studenten der Keio-Uni lässt sich folgendes Ergebnis ableiten.

1. Die allgemeine sportliche Betätigung ist im ersten Studienjahr am Höchsten (Männer: 65.0% ; Frauen: 49.3%) und nimmt bis zum 4. Jahr, besonders bei den Frauen stetig ab (Männer : 50.7% ; Frauen : 25.4%)
2. Wenn man die individuelle sportliche Betätigung nach Studienjahr betrachtet, so kann man sehen, dass Studenten, die im ersten Studienjahr keinen Sport betreiben bis zum 4. Studienjahr Keinen Sport betreiben. Ausserdem ist die Wiederaufnahme der sportlichen Betätigung nach Unterbrechung gering. Man kann sagen, dass zur Weiterführung der sportlichen Betätigung das Betreiben von Sport im 1. Studienjahr wichtig ist.
3. In der gesonderten Befragung der Studenten, die Sport an der Uni weitermachten, die sportliche Betätigung abbrachen und derjenigen, die keinen Sport machten, konnte man sehen, dass andere Faktoren des alltäglichen Lebens, wie Stundenplan, Jobben etc. die sportliche Betätigung nicht sehr beeinflussen. Allerdings konnte man feststellen, dass Studenten, die vor Universitätseintritt Sport betrieben, weiterhin Sport betreiben und ein entsprechendes Bewusstsein gegenüber Sport besitzen.

Schlüsselwörter ; Durchführung von Sportunterricht, Praktische Sportübung, Nichtwahl von Sportunterricht, Fragebogen

キーワード ; 運動実施, 体育実技, 未履修, 質問紙

* 慶應義塾大学体育研究所助教授
** 慶應義塾大学体育研究所助手

¹Associate professor of the Institute of Physical Education, Keio University.
²Assistant of the Institute of Physical Education, Keio University.

目 的

大学における保健体育科目のカリキュラム改訂に伴い、大学体育・スポーツ教育の在り方が問われてきている。慶應義塾大学（以下本塾と略す）においても、1993年より保健体育科目が、環境情報学部、総合政策学部を除いて選択科目となり、1996年度以降、体育科目を履修しなくても卒業することが可能になった。このような状況の中で、村山ら³⁾はこれまで、科目改革の基礎資料として、学生の運動・スポーツ活動の実態について必修時、選択化以後の体育実技履修者を対象に報告してきた。必修時の入学生の調査³⁾からは、入学以前の運動経験および実技以外の運動実施に関する比率や形態・頻度・種目の傾向が示され、学生の指向する種目や実施の程度が明らかとなった。つまり、学生の運動実施形態は大多数がサークルで行われ、その頻度は週1、2日に集中していた。また、実施種目では特に大学入学後、テニス、ゴルフ、スキーへの興味が高まることが特徴的であった。選択化以後の体育実技履修者の調査⁴⁾は、日常的な運動実施、非実施別による体育実技履修目的の違いや必修時のデータとの比較を行った。その結果、日常的に運動を実施している学生は、授業履修に技術を比較的求めるのに対し、体育実技でしか運動しない学生は、運動不足解消・体力維持・レクリエーション志向が強いことが示された。しかしながら、これまでの調査は、体育実技履修者からのみの回答であり、かつ1年生が中心の調査であった。体育実技を履修しない学生や特に3、4年生に関する運動実施の動向は全く不明であり、こうした体育実技未履修者の調査の必要性が課題として残されている。そこで本研究では、本塾の1～4年生の全学年を対象とし、授業の履修・未履修にとらわれない調査を実施することとした。調査内容は、生活の実態、運動・スポーツの実施実態及びその意識、体育科目への考え方等が含まれる多項目となったが、本研究はその基本的な報告として、運動・スポーツの実態に焦点を当てた。つまり、本研究の目的は、これまで不明であった3、4年生及び体育実技未履修者を含む、学生の一般的な運動実施実態について資料を得ることである。

方 法

1. 調査対象：本塾大学生、6学部（文、経、法、商、医、理工）1年生～4年生とした。
慶應義塾大学学生総合センターによる「学生生活実態調査（第18回）」²⁾を参考に各学部、学年とも約7分の1（医学部は約7分の5）を任意に抽出した。
2. 調査方法：質問紙を作成し、郵送による配布・回収を行なった。（配布総数3500）。
3. 調査内容：質問紙法を用いた。調査内容は、1）個人のプロフィール、2）中学、高校時の運動経験、3）大学入学後の運動実施、4）スポーツ・運動への意識、5）体育実技履修内容とし（付表1）、本研究では、3）の学年別運動実施動向と1）の個人プロフィールについて検討した。
4. 調査時期：1997年7月に配布、同8月31日までに回収した。

結果および考察

1. 回答者の基礎的データと調査の有効性について
調査回収総数は1051（回収率30%）であり、そのうち、回答に不備のあったもの（8）を除く、1043を集計対象とした。
表1は、回答者の学部・学年別の人数を示している。学部間の回収比率に大きな差はなく、学年別でも男子1年生が

慶應義塾大学塾生の運動実施に関する実態調査

やや多く、男子4年生がやや少ないものの極端な偏りはなかった。

また、表2には個人の生活プロフィールとして、週当たりの通学日数・コマ数、睡眠時間、アルバイトの実施・日数と時間、について男女別に示した。本塾学生総合センターによる「学生生活実態調査」⁹⁾と比較すると、アルバイト実施率がやや低く、睡眠時間もやや短めであったが、極端な違いではなかった。従って、本調査は全体として塾生の平均的なサンプリングがなされたと考えられる。

表3は中学、高校での運動経験について示した。入学以前の運動実施率は、中学時よりも高校時がやや減少するものの男子72.2%、女子52.2%であった。新カリキュラムに移行した後の体育実技履修者を対象とした先行の調査（1996年実施）⁹⁾では、高校時の運動実施率が男子69.3%、女子57.8%であった。この実施率は、体育実技必修時の同様の調査（1989-92年実施）⁹⁾に比較して高く、実技履修者の特徴と考えられたが、本研究での全学年による結果も1996年実施の値に近い値であった。従って近年、入学以前の運動実施率が、体育実技必修時期よりも高まっている可能性も考えられた。しかし、いずれにしても、入学以前の運動経験からみて、回答者のサンプリングに大きな偏りはなかったと考えられる。

表1 アンケート回答者の学部・学年別人数（男女別）

	男子					女子				
	全体	1年	2年	3年	4年	全体	1年	2年	3年	4年
文学部	66	19	12	18	17	135	38	35	36	26
経済学部	168	46	36	49	37	33	6	11	11	5
法学部・法律	81	20	22	22	17	52	9	16	12	15
法学部・政治	56	22	19	13	2	32	13	11	7	1
商学部	109	33	21	29	26	39	7	13	4	15
医学部	35	16	16	0	1	7	5	2	0	0
理工学部	183	62	41	44	36	29	5	7	11	6
未記入	8	2	1	2	3	10	2	1	4	3
合計	706	220	170	177	139	337	85	96	85	71

表2 個人の生活プロフィール（男女別：平均と標準偏差）

質問項目	男子	女子
大学に行く	4.8(1.3)	4.5(1.3)
履修コマ数（週当たり）	12.8(5.5)	12.9(5.2)
睡眠時間（時間）	6.7(3.3)	6.6(4.5)
アルバイト実施率	53.5%	64.7%
アルバイトの種類（数）	1.5(0.5)	1.4(0.7)
アルバイトの回数（週当たり）	2.4(1.2)	2.4(1.4)
アルバイトの時間（1日当たり）	4.4(2.6)	3.8(1.9)

括弧内が標準偏差を示す

表3 中学・高校時代の運動実施経験について（男女別）

	男子					女子				
	全体	1年	2年	3年	4年	全体	1年	2年	3年	4年
中学時										
運動実施	601	186	142	150	122	193	45	58	55	35
非実施	104	32	28	27	17	139	38	37	28	36
未記入	1	1	0	0	0	5	2	1	2	0
合計	706	220	170	177	139	337	85	96	85	71
実施率	85.1	85.0	83.5	84.7	87.8	57.3	52.9	60.4	64.7	49.3
高校時										
運動実施	510	160	122	123	105	176	36	54	53	33
非実施	195	60	48	54	33	157	46	42	32	37
未記入	1	0	0	0	1	4	3	0	0	1
合計	706	220	170	177	139	337	85	96	85	71
実施率	72.2	72.7	71.8	69.5	75.5	52.2	42.4	56.3	62.4	46.5

2. 大学における運動実施状況

表4, 5, 及び図1は, 大学入学後の運動実施について示したものである。表4は, 1年時から4年時のそれぞれの実施人数と実施率について, 回答者の学年別に集計したものである。回答者の学年別では各年時の実施率に大きな差はなく, 各学年時ではほぼ同様の値が得られた。大学での運動実施は, 1年時が最も高く, 男子65.0%, 女子49.3%であった。大学1, 2年生による体育実技履修者を対象とした村山ら⁹⁾の調査では, 1年時68.5%, 女子60.8%, 2年時男子60.3%, 女子51.0%であったが, 本結果はそれよりもわずかに低い程度であり, 体育実技未履修者を含めても大きな差違を示さなかった。しかしながら, 学年が上がるとともに, 運動実施率は順に低下を示した。男子では, 1年時の65.0%から4年時に50.7%と約15%の減少であった。女子においては, 4年時に25.4%と約半分にまで大きく低下した。竹之内ら⁹⁾は, 中学, 高校, 大学と運動実施率が順に低下することを示し, 大学での実施率は男女平均で, 40%程度であったと報告している。本結果も, 表3に示した中学, 高校での運動実施率との比較から同様の傾向を示し, さらに大学4年間でも, 順次学年毎の実施率低下が示された。

図1は, この実施率の変化について, 個人の年時推移を示したものである。2年生以上のグラフでは, 1年時の実施・非実施に対して横方向に順に次年時へ対応推移している。男女共に, 1年時非実施者のうち2年時以降運動を開始する者は非常に少なかった。また, 1年時実施者のうち, 運動を止めたり中断や開始を繰り返す者は, 運動を継続する者よりも少ない。従って, 運動の継続には, 1年時に運動実施か非実施かが非常に重要なポイントとなると考えられる。

しかしながら, そうした1年時に実施していた者が, 学年が上がるに従い運動しなくなる理由は不明である。このことは, 女子において実施率の低下が著しいことに加え, 今後詳細に検討すべき課題であろう。

表5は, 図1をもとに, 運動継続者・運動非継続者・運動非実施者の3つの群に分け, その他のアンケート項目の結果を比較をしたものである。運動継続群とは運動実施を入学以来継続している者で, 運動非継続群とは継続はしないがいずれかの学年で実施した者, 運動非実施群は全く運動をしていない者とした。体育実技履修率及び履修単位数, 中学・高校実施率, 大学へ行く日数及び履修コマ数, アルバイト実施率の7項目について各群を比較した。体育実技の履修に関しては, 男子が運動非継続群で69.6%, 女子では運動継続群が69.8%を示したが, 各群とも50%を越え, 履修数も大きな差はなかった。また, 大学に行く日数や履修コマ数も違いは認められなかった。しかし, 中学・高校での運動実施率が, 男女共に運動非実施群で他群より低く, 特に高校では運動継続群より男子で20%, 女子で30%以上低かった。また, アルバイト実施率が男女共に運動継続群, 運動非継続群, 運動非実施群の順に低くなっていた。従って, 授業の

慶應義塾大学塾生の運動実施に関する実態調査

履修状況は各群に差がなく、アルバイトの実施も運動継続者の方が高いことから、生活の時間的制約等の理由は運動の非実施とはあまり関係がないと考えられる。しかし、入学以前の運動経験が少なからず運動実施に影響していることから、現在の生活環境等よりも個人の運動やスポーツへの意識、捉え方といったものが関与していると考えられる。この学生のスポーツ意識に関しては本調査の他の課題として検討中であり、今後報告したい。

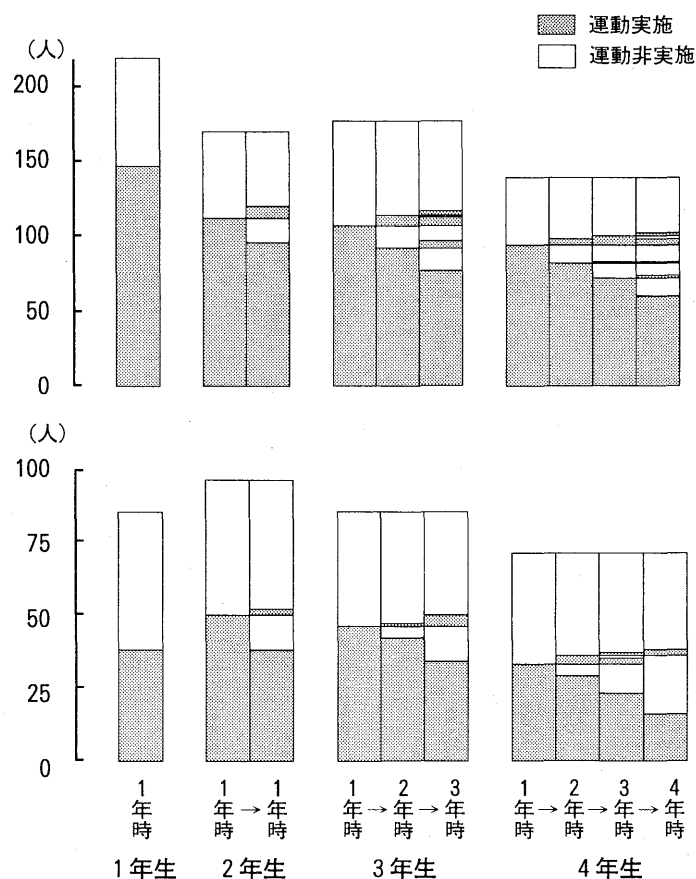


図1 各学年での運動実施状況（2年生以上は個人の変化を推移して表示）

表5 運動の実施および継続群別に見た質問項目の結果

	男子			女子		
	運動継続群 n=382	運動非継続群 n=102	運動非実施群 n=222	運動継続群 n=126	運動非継続群 n=51	運動非実施群 n=160
大学体育実技履修率(%)	59.7%	69.6%	55.9%	69.8%	62.7%	57.5%
大学体育実技履修数(卒業単位)*	2.1(1.3)	2.2(1.3)	1.9(1.3)	1.9(1.0)	1.8(1.0)	1.9(0.9)
中学校運動実施率(%)	89.8%	90.2%	74.8%	65.1%	68.6%	47.5%
高校運動実施率(%)	80.1%	78.4%	55.9%	68.3%	64.7%	35.6%
大学に行く日数(週当たり)	4.8(1.4)	4.5(1.3)	4.9(1.0)	4.6(1.3)	4.0(1.6)	4.7(1.3)
履修コマ数(週当たり)	12.6(5.7)	11.8(5.7)	13.4(4.9)	13.3(4.9)	10.9(5.5)	13.2(5.1)
アルバイト実施率(%)	55.5%	52.9%	50.5%	72.2%	62.7%	59.4%

*印の項目は平均値と標準偏差(括弧内)を示す

運動継続群：運動実施を入学以来継続している者
 運動非継続群：運動実施を中断もしくは中途開始した者
 運動非実施群：運動を全く実施していない者

3. 大学での運動実施に関するその他の資料

本研究では、本塾における大学生全体の運動実施実態を知ることが目的とされた。運動実施率以外の実施状況として、実施形態、実施頻度、実施場所および指導者に関する項目について、表6～9に示した。(ただし、未記入があり、実施者に対する割合は合計で100%にはなっていない)

表6は運動実施形態について学年時別に示したものである。実施者の大半は学内サークルに属し、体育会所属は男子で12%前後、女子で9%前後であった。全般に学年時別の違いは小さく、明確な差は認められなかったが、男子において学外サークル、地域・民間団体での実施率が学年とともに上昇し、女子でも3年時に高かった。荒井⁹⁾は、大学生1, 2年生の調査から、スポーツの場は体育会および同好会にとどまらず、学外グループ、学内諸行事、個人的活動などに分散・多様化し、「学外にある民間のクラブやサークル」への志向が増加していることを報告し、さらに3, 4年生や教職員の調査の必要性を唱えている。この点から、学内サークルだけでない他の形態の増加が3, 4年生に示されたことは興味深い。また、所属区分のない「その他」の者も15%程度あり、個人的な実施も一定数あったと考えられ、サークル以外の実施についても今後注目すべきと考えられる。

表7は運動実施頻度について示したものである。男子が週2日、女子で週1日以下が最大を示し、男女共、週2日以内の運動実施が全体の50%以上を示した。この実施頻度の傾向は、先行研究⁹⁾に一致するもので、学年が上がっても同様であることが示された。

表8は実施場所について示したものである。他大学の利用は全くなく、公共施設が40%以上を占めた。学内の利用は25%前後であり、学年が上がっても減少しなかった。従って、3, 4年生も塾内運動施設が多数を占める日吉、矢上地区を利用するものと考えられる。今後、運動・スポーツの拠点として塾内、特にスポーツ施設が集中する日吉、矢上地区の運動施設の在り方も見直されて行くべきと考えられる。

表9は指導者に関する質問項目である。指導者がいないものが多数であったが、OBによる指導が女子では20%を越えていた。「その他」は、先輩、教員等が主であり、学年が上がるに従い比率が減少した。この点は、卒業後のOBや上級生による指導がサークル活動においても一定の役割を担っていることを示し、塾生、塾員の縦の人間関係も構成されていることがうかがえた。

表6 運動実施形態別人数と実施者に占める割合

	男子				女子			
	1年時	2年時	3年時	4年時	1年時	2年時	3年時	4年時
学内サークル (%)	302 65.8	174 60.6	93 55.0	35 49.3	125 75.3	87 74.4	44 68.8	13 72.2
学外サークル (%)	9 2.0	10 3.5	8 4.7	5 7.0	2 1.2	3 2.6	2 3.1	0 0.0
地域、民間団体 (%)	10 2.2	12 4.2	9 5.3	5 7.0	5 3.0	4 3.4	3 4.7	1 5.6
体育会 (%)	53 11.5	36 12.5	26 15.4	8 11.3	14 8.4	8 6.8	6 9.4	2 11.1
その他 (%)	67 14.6	46 16.0	24 14.2	13 18.3	18 10.8	15 12.8	11 17.2	3 16.7

慶應義塾大学塾生の運動実施に関する実態調査

表7 運動実施頻度別人数と実施者に占める割合

	男子				女子			
	1年時	2年時	3年時	4年時	1年時	2年時	3年時	4年時
週1日以下 (%)	120 26.1	59 20.6	38 22.5	19 26.8	58 34.9	49 41.9	30 46.9	8 44.4
週2日 (%)	133 29.0	92 32.1	47 27.8	25 35.2	56 33.7	34 29.1	15 23.4	5 27.8
週3日 (%)	78 17.0	51 17.8	31 18.3	8 11.3	18 10.8	12 10.3	5 7.8	2 11.1
週4日 (%)	40 8.7	18 6.3	12 7.1	4 5.6	10 6.0	7 6.0	3 4.7	0 0.0
週5日 (%)	27 5.9	23 8.0	15 8.9	7 9.9	3 1.8	3 2.6	3 4.7	2 11.1
週6日 (%)	48 10.5	33 11.5	23 13.6	7 9.9	14 8.4	8 6.8	5 7.8	2 11.1
週7日 (%)	9 2.0	7 2.4	3 1.4	1 1.4	4 2.4	3 2.6	2 3.1	0 0.0

表8 運動実施場所別人数と実施者に占める割合

	男子				女子			
	1年時	2年時	3年時	4年時	1年時	2年時	3年時	4年時
学内 (%)	126 27.5	80 27.9	45 26.6	18 25.4	42 25.3	26 22.2	16 25.0	6 33.3
他大学 (%)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
公共施設 (%)	224 48.8	130 45.3	71 42.0	34 47.9	70 42.2	46 39.3	29 45.3	9 50.0
その他 (%)	76 16.6	55 19.2	36 21.3	14 19.7	39 23.5	34 29.1	14 21.9	2 11.1

表9 指導者に関する質問事項

	男子				女子			
	1年時	2年時	3年時	4年時	1年時	2年時	3年時	4年時
無し (%)	291 63.4	187 65.2	117 69.2	53 74.6	69 41.6	54 46.2	30 46.9	6 33.3
有(OB) (%)	92 20.0	54 18.8	28 16.6	10 14.1	45 27.1	26 22.2	14 21.9	6 33.3
有(契約) (%)	12 2.6	8 2.8	5 3.0	3 4.2	6 3.6	9 7.7	7 10.9	2 11.1
有(その他) (%)	45 9.8	23 8.0	11 6.5	2 2.8	37 22.3	21 17.9	9 14.1	2 11.1

ま と め

保健体育の選択化に伴ない、今後の体育、スポーツ教育の改革のための基礎研究として、本塾大学1～4年生全体を対象としたアンケート調査から、本塾塾生の一般的な運動実施の実態について検討した。任意に抽出した3500名の調査対象の内、体育実技未履修者を含む1043名から回答を得た（回収率30%）。運動実施状況と生活実態に関する項目の集計から、本塾大学における運動実施について以下の結果が得られた。

1. 日常的な運動実施率は、1年時において最も高く（男子65.0%、女子49.3%）、学年が上がるにつれ低下した。その低下は、男子よりも女子で顕著であり、4年時では男子50.7%に対し、女子25.4%であった。
2. 各年時ごとに個人の運動実施をみると、1年時に実施していない塾生のほとんどはそのまま4年間非実施であった。また実施を中断したり再開する塾生の比率も低く、運動実施の継続には、1年時の実施が大きなポイントと考えられた。
3. 運動継続群、運動非継続群、運動非実施群別での他質問項目との比較において、体育実技履修率、授業履修状況、アルバイト実施率などの生活状況は影響しないと考えられた。しかし、入学以前の運動経験が高いほど運動が実施され、個人の運動に対する意識面が影響することが推察された。

付記

本研究は、慶應義塾大学学事振興資金の補助によった。

また、本研究は、慶應義塾大学体育研究所研究プロジェクト「21世紀のスポーツ・健康教育」の第1グループによる「人文・社会科学的アプローチ」として行われたものである。

《参考文献》

- 1) 荒井貞光（1990）大学生のスポーツ参加の〈場〉の実証的研究——転換期を迎えた大学の保健体育科目との係わりの中で——, 広島大学総合科学部紀要, 8:1-14
- 2) 慶應義塾大学学生総合センター（1997）慶應義塾大学学生生活実態調査報告（第18回）1996（平成8）年度, 慶應義塾大学学生総合センター
- 3) 村山光義, 田中伸明（1995）慶應義塾大学学生の運動経験・実施の実態調査——必修体育時の入学生の資料から——, 慶應義塾大学体育研究所紀要, 35(1):69-81
- 4) 村山光義, 田中伸明, 石手靖（1996）新カリキュラムにおける体育実技履修学生の運動活動に関する調査, 慶應義塾大学体育研究所紀要, 36(1):59-66
- 5) 竹之内隆志, 山本裕二, 中島豊雄（1995）大学生の健康と運動に対する認知——選択制体育実技の参加者を中心として——, 総合保健体育科学, 18(1):109-117

付表 1

整理番号				
------	--	--	--	--

大学生の運動・スポーツ活動に関する意識調査

この調査は、大学生の運動・スポーツ活動に関する意識、並びに参加の実態を調べることで、大学における新たな保健体育科目の展開・スポーツ振興のための基礎資料を得ようとするものです。回答いただいた内容は、統計的に処理しますので、あなた自身および所属団体にご迷惑をおかけすることは絶対ありません。ありのままにお答えいただき、調査にご協力いただけますようお願い申し上げます。

慶應義塾大学体育研究所 近藤明彦・植田史生・佐々木玲子・山内賢
村山光義・上向貫志・田中伸明

● 以下の質問についての答えを、回答欄へ記入してください。

Q 1. 所属する学部、学年、生年月日および、性別についてお答えください。

学部	1. 文	2. 経	3. 法(法)	4. 法(政)	5. 商	6. 医	7. 理	学年	年			
生年月日	19						年	月	日	性別	1. 男	2. 女

Q 2. 大学に行く日数及び受講コマ数はいくつですか。

02	週	日
	週	コマ

Q3. 大学通学への交通手段及び通学に要する時間についてお答えください。(複数回答可)

1. 徒歩 2. 自転車 3. バイク 4. 自動車 5. バス 6. 電車
7. その他 (直接回答欄へお書きください)

03	
----	--

Q 4. 現在の居住について、次の項目からお選びください。

1. 自宅 2. 自宅外同居者無
3. 自宅外同居者有 (身内) 4. 自宅外同居者有 (友人)
5. 自宅外同居者有 (その他, 直接回答欄へお書きください)

04	
----	--

Q 5. 睡眠時間は、1日平均何時間くらいですか。

05	
----	--

Q 6. 現在アルバイトをしていますか。

1. している 2. していない

06	
----	--

「している」と答えた方にお聞きします。

Q6-1. いくつしていますか。

06-1	
------	--

Q6-2. 何をしていますか。

06-2	
------	--

Q6-3. 頻度及び時間はどのくらいですか。

06-3	
------	--

Q6-4. 勤務時間帯はいつですか。(24時表示でお答えください)

06-4	
------	--

慶應義塾大学塾生の運動実施に関する実態調査

● 体育実技を除く 日常的な運動・スポーツ活動についてお聞きます。答えを回答欄に記入してください。

Q 7. 中学、高校時代に体育の授業以外で、定期的に運動を実施していましたか。

1. 実施していた 2. 全く実施していない

「実施していた」と答えた方は以下についてお答えください。

Q7-1 実施期間はどのくらいですか。

Q7-2 実施形態についてお答えください。

- ア) 学内クラブ(部)活動 イ) 地域クラブ活動
ウ) その他(直接回答欄へお書きください)

Q7-3 実施種目は何ですか。

Q7-4 実施場所についてお答えください。

- ア) 学内 イ) 他校 ウ) 公共施設
エ) その他(直接お書きください)

Q7-5 実施頻度についてお答えください。

(月、週については該当する方に○をつけてください)

	中学時代	高校時代
07		
Q7-1	年 ヲ月	年 ヲ月
Q7-2		
Q7-3		
Q7-4		
Q7-5	月 or 週 回	月 or 週 回

Q 8. 塾入学後、現在までに定期的に運動を実施していますか、していましたか。

(体育実技を除く)

1. 実施している、していた。
2. 全く実施していない、していなかった。

それぞれの学年で「1」と答えた方は、以下の質問項目についてお答えください。

Q8-1 実施形態についてお答えください。

- ア) 学内サークル イ) 学外サークル ウ) 地域・民間団体
エ) その他(直接回答欄へお書きください)

Q8-2 一回あたりの実施費用はいくらですか。

Q8-3 実施団体名についてお答えください。

Q8-4 実施種目は何ですか。

Q8-5 実施場所についてお答えください。

- ア) 学内 イ) 他大学 ウ) 公共施設
エ) その他(直接お書きください)

Q8-6 指導者の有無についてお答えください。

- ア) 無し イ) 有り(OB) ウ) 有り(契約)
エ) 有り(その他, 直接お書きください)

Q8-7 実施頻度についてお答えください。

(月、週については該当する方に○をつけてください)

Q8-8 実施の動機、目的についてお答えください。

- ア) 運動不足解消 イ) 競技力向上 ウ) 友達づくり
エ) その他(直接お書きください)

	1年次	2年次	3年次	4年次
08				
Q8-1				
Q8-2				
Q8-3				
Q8-4				
Q8-5				
Q8-6				
Q8-7	月 or 週 回	月 or 週 回	月 or 週 回	月 or 週 回
Q8-8				

慶應義塾大学塾生の運動実施に関する実態調査

● 運動・スポーツ活動に対してのあなたの気持ちをお答えください

Q 9. 将来の自分自身の運動・スポーツ活動について、あなたはどのように思っていますか？

次の1から7のうちもっとも当てはまる番号を一つ選び○で囲んでください。

1. 現在、運動・スポーツを行っているが、より積極的に行うつもりだ。
2. 出来ることならば、今やっている以上に運動・スポーツを行うつもりだ。
3. 現在と同程度に運動・スポーツを行うつもりだ。
4. 現在より少なく運動・スポーツを行うつもりだ。
5. 現在、運動・スポーツを行っているが、もうやめようと思っている。
6. 現在、運動・スポーツを行っていないが、できれば何らかの運動・スポーツを行ってみたい。
7. 現在、運動・スポーツを行っていないが、将来も運動・スポーツを行うつもりはない。

Q10. 運動・スポーツ活動についてどう思っていますか？ 次のそれぞれの質問項目について1から4のいずれか、当てはまる番号を○で囲んでください。

	非常に そう である	少し そう である	あまり そう ではない	全く そう ではない
1. 運動・スポーツ活動が好きだ。	1	2	3	4
2. 人は運動・スポーツ活動を行う必要があると思う。	1	2	3	4
3. 勝つことに意義があると思う。	1	2	3	4
4. 相手と競うことが大切である。	1	2	3	4
5. チームメイトとの協力が大切である。	1	2	3	4
6. 頑張ることが大切である。	1	2	3	4
7. 耐えることが必要である。	1	2	3	4
8. 技能の向上が大切である。	1	2	3	4
9. 体力の向上に役に立つ。	1	2	3	4
10. 体に悪いと思う。	1	2	3	4
11. 気分転換・ストレスの解消に役に立つ。	1	2	3	4
12. 他の日常生活に大切なものを犠牲に思う。	1	2	3	4
13. 余暇の有効な利用方法である。	1	2	3	4
14. 楽しむことが大切である。	1	2	3	4
15. 継続して行うべきものである。	1	2	3	4
16. 気の向いたときに行うものである。	1	2	3	4
17. 自分が行うことが大切である。	1	2	3	4
18. 見て楽しむものである。	1	2	3	4
19. 勝ったときの感激が何ものにも代え難い。	1	2	3	4
20. 負けたときのいやな気持ちが耐え難い。	1	2	3	4
21. 運動をする事に多少の不安がある。	1	2	3	4
22. 運動をすることはおっくうである。	1	2	3	4

慶應義塾大学塾生の運動実施に関する実態調査

	非常に そう である	少し そう である	あまり そう ではない	全く そう ではない
23. 私には得意なスポーツ種目がある。	1	2	3	4
24. 運動は身体のためにやったほうがよい。	1	2	3	4
25. 自分にとって運動は必要ない。	1	2	3	4
26. 運動は疲れるからいやである。	1	2	3	4
27. 運動によって負けたり失敗していやな思いをする。	1	2	3	4
28. 運動をすることは恥ずかしい。	1	2	3	4
29. 仲間と気軽に運動できる施設がない。	1	2	3	4
30. 医者から運動を止められている。	1	2	3	4
31. 大学に運動施設があればやりたいと思う。	1	2	3	4
32. スポーツ教室やイベントがあれば参加する。	1	2	3	4
33. 私は健康だから運動は必要ない。	1	2	3	4
34. 通学やバイトで体は動かしている。	1	2	3	4
35. 運動したいけれど教えてくれる人がいない。	1	2	3	4
36. 何となく運動をしない。	1	2	3	4
37. 他にお金が必要だから運動のためには使えない。	1	2	3	4
38. 運動・スポーツ活動をする時間があるなら勉強する。	1	2	3	4
39. 運動・スポーツ活動をする時間があるなら文系サークル活動 などをする。	1	2	3	4
40. 運動・スポーツ活動をする時間があるなら他の娯楽 (映画・遊技など)をする。	1	2	3	4
41. 運動・スポーツ活動をする時間があるならアルバイトをする。	1	2	3	4
42. 運動・スポーツ活動をする時間があるなら休養をする。	1	2	3	4

Q11. 運動・スポーツ活動を行うときどのような結果を期待しますか？ 次のそれぞれの質問項目について1から4のいずれか、当てはまる番号を○で囲んでください。

	非常に そう である	少し そう である	あまり そう ではない	全く そう ではない
1. 上手になれると思う。	1	2	3	4
2. 体力を高めることができると思う。	1	2	3	4
3. 健康の増進に役立つと思う。	1	2	3	4
4. 我慢強さを育てることができると思う。	1	2	3	4
5. ルールを守る精神を育てることができると思う。	1	2	3	4
6. チームメイトと仲良くすることが出来ると思う。	1	2	3	4
7. 多くの友人を作ることができると思う。	1	2	3	4
8. 気分転換やストレスの発散ができると思う。	1	2	3	4

慶應義塾大学塾生の運動実施に関する実態調査

	非常に そう である	少し そう である	あまり そう ではない	全く そう ではない
9. 楽しむことができると思う。	1	2	3	4
10. ほかのやりたいことが出来なくなると思う。	1	2	3	4
11. お金の無駄使いだと思う。	1	2	3	4
12. しばらく続けると飽きてしまうと思う。	1	2	3	4
13. 何の役にも立たないと思う。	1	2	3	4
14. いやな思いをすると思う。	1	2	3	4

Q12. 現在あなたは自分自身についてどう感じていますか？ 次のそれぞれの質問項目について1から4のいずれか、
当てはまる番号を○で囲んでください。

	非常に そう である	少し そう である	あまり そう ではない	全く そう ではない
1. 体力はある方だ。	1	2	3	4
2. 健康には自信がある。	1	2	3	4
3. 運動は得意である。	1	2	3	4
4. なにをやってもすぐうまくなる。	1	2	3	4
5. 汗を流すのが好きだ。	1	2	3	4
6. 挑戦するのが好きだ。	1	2	3	4
7. 仲間と仲良くやるのが好きだ。	1	2	3	4
8. 活動的な方だ。	1	2	3	4
9. 飽きっぽい方だ。	1	2	3	4
10. すぐ疲れる方だ。	1	2	3	4
11. 何事も楽しめる方だ。	1	2	3	4
12. 意志の強い方だ。	1	2	3	4
13. 私は神経質なほうである。	1	2	3	4
14. 自分に劣等感を持っている。	1	2	3	4
15. 明朗活発である。	1	2	3	4
16. 自分は太っていると思う。	1	2	3	4
17. 病弱なほうである。	1	2	3	4
18. 何事にも機敏に動けるほうである。	1	2	3	4
19. 友達がやっていることが羨ましく思う。	1	2	3	4
20. 毎日忙しいが休養睡眠は十分に取るほうである。	1	2	3	4
21. 忙しくても趣味の時間は取ってある。	1	2	3	4
22. 自分の健康を考えて食事を摂っている。	1	2	3	4
23. 私には一緒に運動をする仲間がいる。	1	2	3	4

慶應義塾大学塾生の運動実施に関する実態調査

- 体育実技に関してお聞きます。回答を回答欄に記入してください。

Q13. 大学においてこれまでに体育実技を履修していますか？回答欄に記入してください。

- 履修した。
- 履修していない。

Q13

Q14. 他科目と比較して体育実技は必要だと思いますか。

- はい
- いいえ
- どちらともいえない

Q14

- 体育実技を履修していない方にお聞きます。

Q15. なぜ体育実技を履修しなかったのですか？（複数回答可）

- 必修でないから
- 運動が嫌いだから
- 履修する気持ちがないから
- 時間割の都合で履修できないから
- これから先履修する予定だから
- その他（理由をお書きください）

Q15

- 体育実技を履修している方、履修していた方にお聞きます。

Q16. なぜ、体育実技を履修しましたか。（複数回答可）

- 単位取得のため
- 運動不足解消のため
- 空き時間を埋めるため
- 必修だったため
- 教職をとるため
- 体力の維持・増進
- 健康の維持・増進
- 友人を増やす
- 技術の向上
- 楽しむため
- その他（直接お書きください）

Q16

Q17. 現在まで履修した種目名とその数を卒業単位として履修したものと自由科目として履修したものに分けて記入してください。

Q17	卒業単位として	種目名
		履修数
	自由科目として	種目名
		履修数

Q17-1. その中で初めて行う種目は何でしたか

Q17-1

Q17-2. なぜ初めての種目を履修したのですか。理由をお書きください。

Q17-2

慶應義塾大学塾生の運動実施に関する実態調査

Q18. 実際に体育実技を受講してどう思われましたか？ 次の質問について1から4のいずれか、当てはまる番号を○で囲んでください。

	とても満足した	やや満足した	やや不満であった	全く不満であった
1. 受講者の人数は適正でしたか。	1	2	3	4
2. 運動施設はどうでしたか。	1	2	3	4
3. 更衣室等の付帯施設はどうでしたか。	1	2	3	4
4. 用具はどうでしたか。	1	2	3	4
5. 授業内容はどうでしたか。	1	2	3	4
6. 運動量はどうでしたか。	1	2	3	4
7. 受講した他の学生とのコミュニケーションはどうでしたか。	1	2	3	4
8. 期待通りのものでしたか。	1	2	3	4
☆ 体育実技について総合的に評価してください。	1	2	3	4

Q19. 体育実技について何か要望はありますか。

1. はい
2. いいえ

Q19

Q19-1 「はい」と答えた方にお聞きします。それはどのようなことですか。

Q19-1

Q20. 履修した体育実技の種目を将来（卒業後）続けていこうと思いますか。

1. はい
2. いいえ

Q20

Q20-1. 「いいえ」と答えた方にお聞きします。なぜ、そう思いますか。

Q20-1

記入年月日：平成 9 年 月 日

※ ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに郵便ポストに投函してください。